

アメリカでのキャリア発達研究の理論的展開

——なぜ進路指導からキャリア支援なのか——

渡辺 三枝子 (筑波大学特任教授キャリア支援室長)

1. キャリア発達(career development)のルーツ

20世紀初頭の職業心理学をルーツとした心理学の二領域をルーツとする

- ① Vocational guidance & counseling(後にカウンセリング心理学として独立)——個人の視点にたつ。
- ② 産業・組織心理学——組織の視点にたつて、組織と個(成人から中年期)のキャリア形成をとらえる

2. キャリア発達研究の主要な流れ

- D.Superとその弟子たち:生涯キャリア発達のアプローチ(1950年代から始まる15歳の生徒を対象とした縦断的研究)
- E. Ginzberg(Freudian 分析家、Piagetian 発達心理学者ら)によるHRの開発に関する研究のなかから生まれた「職業選択を一時点の出来事としてではなく“発達”過程と捉える」理論の提唱(career theoryの発展を促す)
- E.Schein:成人のキャリア形成とキャリアアンカー(1960年代後半からはじまる、MBA 所得者対象の組織化の過程、塵埃育成に関する縦断研究)、キャリアアンカーの発達

3. キャリア発達研究の発展に影響を及ぼした要因

社会・経済的環境の変化、産業構造の変化の影響をうけて、心理学の諸領域の理論の発達に支えられて発展、また、カウンセリングの実践:「変化する環境の中で、自己の存在を最大限に生かし、かつ社会の創造に貢献するために」というイデオロギイの実現のための実践はいかにあるべきかという絶え間ない問い掛け

M. Katz “キャリアガイダンスは、経済を父とし、イデオロギイを母とし、
一時期、教育界を住処とし、心理学を友として育った“

4. キャリア発達研究の影響:vocational guidance からキャリア発達支援への移行の意味すること

「人」と「働くこと(work)」との関係についての捉え方を変化させた。

それは「マッチングモデルからキャリアモデルへの移行」としてカウンセリング、進路指導の目標と実践、プロセス、プログラムに大きな転換を迫った

5. キャリア発達研究の問題点:アメリカにおいて、20世紀のキャリア発達研究への問い直しがおきている。

①研究・実践の視点の問い直し:社会・経済的環境の変化への取り組み方

「キャリア」に含まれる概念は別として、研究、カウンセリング等でキャリアというとき、無意識的に「中産階級」で「ホワイトカラー職」を意味していなかったか?

経済格差が広がる現状の中で、個々人にとって職業生活や職業選択のもつ意味を問い直す必

要がおきてきていることを、キャリア発達の研究者や実践家はどのように捕らえているか？

「組織のなかのキャリア」が研究テーマの中心ではなかったか？

②対象の偏り:アメリカの研究は大半が、白人の中流、男性を対象として構築されてきた

③20世紀のキャリア発達研究は、よりよい適合、よりよい人と環境との適合へという方向性を発達のテーマとしていなかったか？

④キャリア発達理論は主観的キャリアよりも客観的キャリアをとり扱ってこなかったか

6. 日本における課題と思われること

- ① 研究と実践の乖離:アメリカのキャリア発達理論がカウンセリング心理学を土台としていることへの理解不足
- ② 社会経済的環境と個人の行動との相互作用についての理解の不足
globalization、技術革新の進展、官僚、組織の弱体化などが自己と自己のアイデンティティの捉え方を変えてきている。
- ③ マッチングモデルとキャリアモデルの違いの理解不足
例:自己理解、自己分析という名のもとに実践されていることはマッチングモデルであって、キャリアモデルではない
「人と組織、人と職業との適合の支援」と、「意味付け・価値付けをしていくことへの支援」の相違についての理解不足。
- ④ career development がキャリア発達とキャリア開発に訳されている現状とその関係についての認識
- ⑤ 「キャリア」の概念の共通化への努力
- ⑥ 社会・経済的環境の変化を視野に入れてキャリア発達を考えると、「個」や「self」の概念への理解と個の発達、self-development の重要性への理解がかぎになる:自己決定力、人間関係力、将来展望、目標志向、キャリア形成力などが強調される意味を理解する鍵である。

参考:関連する用語の定義

* 進路指導(キャリアガイダンス)とは

生徒の個人資料、進路情報、啓発的経験および相談を通して、生徒自ら、将来の進路の選択・計画をし、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する**能力**を伸張するように、教師が、組織的、継続的に指導・援助する過程である

出典 文部省「中学校・高等学校進路指導の手引き」昭和 36 年

* キャリア教育とは

教育改革の理念であり指針：キャリア発達や個の自立を促す視点から、従来の教育のあり方を幅広く見直し、改革していくための理念や方向性を示すもの

児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育

出典 文部科学省「キャリア教育の推進 報告書」

* カウンセリングとは？

心理学的な専門的援助過程であり、それは大部分言葉を通して行われる過程であり、その過程の中で、カウンセリングの専門家であるカウンセラーと、なんらかの問題を解決すべく援助を求めているクライアント(生徒)とがダイナミックに相互作用し、カウンセラーはさまざまな援助行動を通して、

自分の行動に責任を持つ クライアントが自己理解をふかめ、「よい(建設的・積極的)」意思決定という形で、行動が取れるようになることを援助する。

最終的目標は、社会の中でその人なりに最高に機能できる自発的で独立した人として自分の人生を歩むようになること。

出典 渡辺三枝子「新版カウンセリング心理学」

* キャリアとは

個々人が、生涯にわたって遂行するさまざまな**経験の累積**(立場や役割の連鎖):その過程における**自己と働くこととの関係付けや価値づけの累積**

出典 文部科学省「キャリア教育の推進 報告書」